

ピーターは、長男。お母さん、お父さんの愛情を一身に受けて、これまで育ってきた。それが、妹のスージーが生まれたことで、状況が一変する。お母さんとお父さんは、生まれたてのスージーのために一生懸命だ。そのことが寂しくて、ピーターは、積み木のビルを作ってお母さんとお父さんの気を引こうとするが、積み木が崩れてしまったことで叱られ、逆に赤ちゃんを第一に考える母の思いを伝えられてしまう。赤ちゃんのために大忙しのお母さん。自分が使っていたゆりかごもスージーのためにピンクに塗られてしまった。そして、お父さんから、自分が以前使っていた食堂いすをピンクに塗る作業を手伝うよう頼まれる。

→ 【そこで生じたピーターの最初の課題】

「スージーだけじゃなく、自分のことも、お母さんとお父さんに、これまでのように見つめてもらい、構ってもらい、考えてもらうためにどうするか。」

赤ちゃんベッドもピンク。その近くに、まだピンクに塗られていない小さい時のいすを見つけたピーターは、「あれは、まだ、ぬってないぞ。」大声をあげて、自分の不満な気持ちをお父さんに伝え、そのいすを持ち上げて、自分の部屋にかけていった。そして、犬とともに家出のふりをする。家出のふりは今回が初めてではなく、お母さんには家の周辺にいることが分かっているという前提の下での行動である。青いいす、おもちゃのわに、赤ちゃんのときの写真を持って行ったのは、お母さんに並べて見せて、「赤ちゃんのときと同じように、自分の方を向いてほしい、自分を見つめてほしい、自分の存在を忘れないでほしい」という思いを表現するためだった。

ところが、いざ青いいすに座ろうとすると、おしりがいすに入らない。その事実から、「大きくなり 過ぎて いた んだ。」という現実を突きつけられたピーターは、もう自分がこのような「小さい子」の手法でお父さんやお母さんの気を引ける存在ではないことを悟らされ、自分のここまでの行いに恥ずかしさを感じたに違いない。

→ 【そこで生じたピーターの新しい課題】

「小さい子としてではなく、大きくなったピーターとして、お母さんとお父さんに、どう自分への認識を変えさせ、認めてもらうか」

まどのところに来て、小さい子にかけるような声をかけるお母さんに対し、お母さんの予想の上を行く行動（これまでの自分とは違う行動）をすることを思いつく。だまされたお母さんに、すぐに自分の居場所を教えたのは、見つからないことが目的ではなく、お母さんを驚かせることが目的だったからである。

そして、食卓いすをピンクに塗るのを手伝ってほしいと依頼してきたお父さんには、青いすをピンクに塗ろうと、逆に自分から提案をし、一緒に作業をすることで、大きくなった自分として認めてもらおうとしたのである。

【子どもたちに考えさせたい主な問題】

- ・⑧お父さんに聞こえてしまうのに、「あれは、まだ、ぬってないぞ。」とピーターが大ごえをあげたのは、なぜか。
- ・⑨ピーターがちっちゃいときにすわった青いすを、「もち上げると、自分の部屋にかけていった」のはなぜか。
- ・⑩「あの青いすとおもちゃのわにと、赤ちゃんのときのしゃしん」を家出にもって行こうとしたのは、なぜか。
- ・⑳おかあさんが、カーテンをはねのけると、すぐに「こっちだよ。」と大きな声で言ったのは、なぜか。
- ・㉑「あのちっちゃないす、スージーのためにピンクにぬろうよ。」と言ったのは、なぜか。